

神楽名

# こざき かわ くち 小崎・川の口神楽

伝承地

小崎地区、川の口地区  
椎葉村大字大河内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

小崎・川の口神楽保存会

小崎代表 椎葉 眞  
川の口代表 那須敏昭  
総代 右田幸一



刀力面

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

小崎・川の口神楽は、椎葉村南部の山間地を流れる小崎川沿いの高台に位置する、小崎神社の例祭にて奉納される。小崎神社の創建は文久二年（1862）と伝わり、『日向地誌』によると旧称山王権現とある。小崎・川の口集落にはかつて数多くの祠があったが、明治の頃にその多くが小崎神社に合祀され、社殿内部には小神像40体ほどが安置されている。小崎と川の口は、昔は別々に神楽を行っていたが合祀後は一緒に奉納されるようになった。お清めの「板起し」が済むと、小崎集落「大森32枚小森50枚」の御幣と、川の口集落「大森34枚小森58枚」の御幣が、定められた木の樹洞に御供と共に祀られる。合祀を嫌った神様がいて現在も個々の場所に鎮座し、こちらにも神楽の前には氏子により御幣が供えられる。

平成20年頃に小崎神社舞殿が改築され、その際には「鬼神」が奉納された。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 小崎・川の口夜神楽... 11月最終土、日曜日

## ◆ 演目一覧

※平成7年撮影動画に基づく

板起し	お布替え	神事	御神屋	しめ祝い
一神楽	日月	大神	刀力面	芝引き
稲荷神楽	一神楽（2回目）	鬼神	かんしい	日月（2回目）
大神（2回目）	戸取面	女粧面	下の重	火の神神楽

※平成25年の調査に基づく

板起し	お布替え	宮神楽	神迎え	御神屋
しめ祝い	一神楽	日月	大神	刀力面
戸取面	女粧面	下の地面（下の重）	鬼神面	柴引面
稲荷神楽	紋の神楽	かんしい	オキエ	ごっ天皇
火の神神楽	神送り	宝渡し		

## ◆ 演目の特徴

「お布替え」と呼ばれる神事では宮司と祝子数人が小崎神社本殿に上がり、合祀された小神像の白紙の衣を着せ替える。準備の間、お布替えの歌「神の子供とえびすの子供が かい つも つれ つ 袖にも つれて 千年ゆうという かいをこそむる 万年ゆうという かいをこそむる 谷が八つでむねが九つ これや一との しらはりしやうぞく 白張装束たもとくり上げ ちをゆうことは疑いもなし」が月の数繰り返し唱えられる。

一神楽～稲荷神楽までは同じ演目を交代で舞い、合計三十三番であった。現在は繰り返す事はなくなっている。せり歌は主に女性が歌い、昔からあるものを即興で歌詞を変えて歌う。

## ◆ その他の特徴

- 面... 戸取、女粧面、刀力、柴引 等
- 楽... 太鼓、たて笛、楽板
- 装束... 白衣、すおう素襖、白袴、青袴、女性の着物、舞笠、天冠、宝冠、えぼし烏帽子 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、刀、面棒、榊枝、麻緒 等
- 文書... しやうぎやう唱教本「小崎神社大祭」、御幣切り方「祭典準備」 等

## ◆ 伝承の現状・課題

ほうりこ 祝子は20数名。若い継承者がいない。椎葉村の伝統で、不幸があると神楽が中止になる（黒不浄）。以前は身内に不幸があると1年は神社に入ることができなかったが、現在は制限を緩和している。子供神楽にちがつ「日月」や「一神楽」を数年前から始めたが、子供の数も減少している。



小神像（お布替え）



かんしい



女粧面